

第1回アイランドシティ低炭素型都市ビジョン検討委員会 議事要旨

■ 日 時：平成22年8月26日（木）10時から12時まで

■ 場 所：福岡市役所本庁舎9階 特別第2会議室

■ 出席者：

（順不同，敬称略）

委員長	出口 敦	九州大学大学院人間環境学研究院教授
委員	青 和彦	西部ガス株式会社リビングエネルギー本部リビング営業部部长
	赤司 泰義	九州大学大学院人間環境学研究院教授
	末廣 香織	九州大学大学院人間環境学研究院准教授
	蛭川 利彦	九州大学大学院人間環境学研究院教授
	橋本 淳	福岡市環境局温暖化対策部長
	永富 伸二	福岡市港湾局アイランドシティ事業推進部長
オブザーバー	津幡 昭宏	九州電力株式会社経営企画本部企画担当地域戦略グループ課長 （橋本 上 九州電力株式会社経営企画本部企画担当地域戦略グループ長代理）
事務局	福岡市港湾局アイランドシティ事業推進部企業誘致課	

■ 配付資料：

- ・委員名簿，座席表
- ・アイランドシティ低炭素型都市ビジョン検討委員会設置要綱(案)
- ・情報公開の取り扱い(案)
- ・アイランドシティ低炭素型都市ビジョンの策定について
- ・スケジュール（案）

■ 議 事：

1 開会

2 出席者紹介

3 議事

(1) 検討委員会の運営について

- ・今回のアイランドシティ低炭素型都市ビジョン検討委員会の運営方法及び情報公開に関する取扱いについて事務局から説明し，委員の了承を得た。
- ・その後，委員の互選により，出口委員が委員長に選出され，出口委員長の指名により赤司委員が副委員長に選出された。

(2) 国・本市等における低炭素型社会に向けた動きについて

（事務局から説明）

事務局より、「国・本市・アイランドシティにおける低炭素社会に向けた動き」の説明を行った。

（質疑等）

委員等 資料の35頁に示されている数値は2010年度の部門別CO2削減目標値（2004年度基準）で，資料の37頁に示されている数値は2010年度の削減量（試算値）という理解でよいか。

- 委員等 資料 35 頁の CO2 削減目標値については、そのとおりである。また、資料 37 頁の CO2 削減量については、2010 年度の本市における温暖化施策に対する効果を試算したものである。
- なお、本市全体の CO2 排出量については、2 年遅れで公表している。現在確定している最新値となる 2008 年度の排出量によると、家庭部門では、2008 年度目標値 8%減に対して 14.5%増、業務部門では同じく 14%減に対して 20%増、自動車部門では同じく 8%減に対して 1%減となっている。
- 委員等 国で CO2 削減目標値が示されているが、アイランドシティでも、それに近いもの、準拠したものを設定するのか。
- 委員等 現在、環境局において本市の温暖化対策実行計画の改訂作業を行っており、来年度には新たな目標値を設定する予定である。
- 国では「2050 年に 80%削減（対 1990 年比）」としているが、福岡市では、産業構造の違いがあり、90%削減しないと国の考え方と整合しない。全体の見通しとしては国と整合させていくことになるだろうが、それに向けて、短期的（2012 年）、中期的（2030 年）、長期的（2050 年）にどのようなカーブで実現していくのか検討している。
- また、全市を対象として策定されている地球温暖化対策実行計画では、これまで単体の施策は打ち出しているが、面的に対策を導入する視点が弱いので、今後は面的な取り組みも必要と考えている。その対象としていくつかの地区をモデルとしたいと考えている。アイランドシティは、新しい市街地であり、取り組みが比較的容易であると考えられるため、面的対策の導入を打ち出していきたい。なお、当然、本市の全体計画との関連や整合性を図っていく必要がある。
- 本委員会では、福岡市全体の計画に先行して、アイランドシティの計画についてご議論いただくことになる。
- 委員等 「全体の底上げを図る施策に取り組んできたが、なかなか成果が挙がらない面もあるので、モデル地区を設定し、重点投資を行うことで成功例を示し、それを波及させていくほうが効果が期待できる」という考え方か。
- 委員等 その通りである。全市のモデルとなるような施策をアイランドシティで展開して、それを波及させていくという観点から検討していきたい。
- 委員等 市が提示している CO2 削減量の数値目標は、運用時に力点をおいて設定されているようであるが、生産・建設段階での CO2 削減をどのように取り扱っているのか。
- 具体的には、建築物の CO2 排出量は、建設時と運用時の比で 1 対 2 程度と考えられるので、CO2 排出量の 1 / 3 程度は建設時に発生する。

市が示している C02 削減目標値は、建物の建設等に際して発生する C02 排出量も含まれているのか。

事務局 C02 排出量の算定方法を含め、ストック時の C02 排出量が含まれているかについて確認し、報告したい。

(3) ビジョン策定の目的・検討内容等について

(事務局からの説明)

「アイランドシティ低炭素型都市ビジョン」の構成(案)について事務局から説明した。

(質疑等)

[ビジョンの位置づけ]

委員等 「アイランドシティ事業計画」と当ビジョンとは、どのような関係にあるのか。

事務局 「アイランドシティ事業計画」はアイランドシティ事業全般について一般的な記述にとどまっている。当ビジョンでは、その中の環境のまちづくりについて、「将来像」、「ロードマップ」などを策定し具体的な方向性を明らかにするものであり、それを市民等に対して分かり易く示すものとしてとりまとめたと考えている。

[ビジョンの対象エリア]

委員等 対象エリアとして「市5工区を中心としたまちづくりエリア」とあるが、具体的にはどの地区を指すのか。

事務局 まちづくりエリアの北半分の市5工区を基本的な対象エリアと考えているが、博多港開発工区のうち未分譲地も含めたい。

また、まちづくりエリアのうち既に建物・施設が立地しているエリアについても、建物更新の際にビジョンで示す新たな方策に取り組むことや、対象エリアと一体となったエネルギーマネジメントの実施などについて検討していきたい。

委員等 既に開発されているエリアについては、分野別方向性で挙げられている「環境活動」等について対象エリアと一体となった実施が考えられるということか。

事務局 「地域」の項目で挙げている、エネルギー使用量等の把握とそれに基づくアドバイスなどについても対象エリアと一体となった実施を検討すべき方策だと考えている。現実的には、実施に当たって費用を必要とする方策とそうでない方策とに切り分けて実施する等の対応も考えられる。

[先進性]

委員等 先進的な技術を取り込むことが強調されているが、「先進性の持続」といった観点から、システムを切り替えることができるフレキシビリティも必要である。

大規模開発なので、コストを抑えてそれなりの環境が確保できるようなモデルもつくるなど、プロジェクトによって濃淡があっても良いのではないか。

断熱のような、後からは変更しにくい基本的な要素は最初の建設時点で対応し、後年度に追加が可能なメニューは、後から追加するという考え方もある。

[独自性]

委員等 「技術」については、どの地域の低炭素型まちづくりも類似したものになるので「独自性」がポイントになるのではないか。「技術」がないと低炭素化は図れないのは事実と思われるが、「技術」が先行するのではなく、精神論や生き方のような要素を先に謳うべきではないか。また、コミュニティを中心とし、それに技術が加わるようにすべきではないか。

委員等 技術的な要素は、他地域がより先端的なものを導入すれば、陳腐化してしまう可能性がある。

事務局 地域、コミュニティ、住む人のマインドといった要素に関する仕掛けが独自性を打ち出すきっかけになるだろう。

委員等 アイランドシティは海に面しており、野鳥公園など自然環境を備えていることも独自性の要素になろう。

委員等 「独自性」の中身を具体的に検討し、分野別にどのように反映させるか、について検討する必要がある。

委員等 アイランドシティには、「都市活力の向上に挑戦する“グリーンアイランド”の創造～豊かな自然と共生する低炭素型のまちづくり～」という基本コンセプトがある。また、効率的なエネルギー利用や低炭素型まちづくりといった環境・エネルギー面でのコンセプトもあり、これを具体的なビジョンとして描いていきたい。街の考え方、暮らし方等のことも含め、一度整理したい。

[モデル性]

委員等 50年先の技術は、現状である程度把握できる。重要なのはその技術を一般の人が見て、導入したいと思わせることである。

委員等 導入と普及は別であり、普及して市民の手に届くことが必要である。先端技術を一般に普及させるためには、導入して明らかになった課題に対して、普及させていくために市が採るべき施策を明らかにしていくことが必要である。このような「政策化」の考え方を追記しておく

とよい。
事務局 分野別に、中長期の国の施策を踏まえ、市としてどのように取り組んでいくべきか整理したい。

環境局に太陽光発電システム導入等への補助制度があるが、予算に限りがあるので、国の補助制度などを活用しながら実際には進めていきたいと考えている。

委員等 新規導入や機器更新に際して、機器単体への補助があることは悪いことではないが、その恩恵にあずかる人とそうでない人が生ずる。エコカー減税は、自動車を利用せず、自転車を利用したり徒歩で生活している人には恩恵がない。省エネ型エアコンの購入にはエコポイントが付くが、エアコンの使用を控えようとする人には恩恵がない。このような人たちにメリットがあるような仕組みが必要である。

[モデル事業]

委員等 「1. 目的」の3番目に「モデル事業」が挙げられているが、モデル事業は単発に終わってしまう懸念もある。

事務局 モデル事業は、実際に事業化するという意義があると考えている。モデル事業を実施することで、中期的な課題が明らかになり、ビジョンの実現について信頼性が増すものと考えている。

委員等 「1. 目的」に「先導的モデル事業についても適宜盛り込む」こととするとあり、また、「(2) 取り組みの方向性①全体(ア)先進性」の項に「個別プロジェクト」とあるが、これらは同じものを指すのか。

事務局 同じものを指している。

委員等 先導的モデル事業を適宜盛り込んでいくというのは、これから進めていくプロジェクトでも先導的モデル事業を実施していくということか。

事務局 現在のところ、CO2 ゼロ街区以外でのモデル事業の実施については未定であるが、ひとつひとつの開発がその時点でのモデルとなるような事業になるように開発を進めていきたい。

[自然環境を活かしたまちづくり]

委員等 開発時点における先端技術をその都度取り入れていくという考え方をとる前に、住宅を集約化して周辺を森にするなど、どのような考え方でまちづくりを行っていくか、を検討することが必要である。

内陸型のまちづくりでも導入可能な方策がほとんどであるように見受けられるが、アイランドシティのように、海の中に立地する特性を活かして、風況条件に合わせた風の道等をつくるといった方策を取り込む視点も必要ではないか。既に計画に折り込まれているのか。

事務局 水と緑など、基本的な内容については、「アイランドシティ事業計画」に盛り込んでいるが、具体的な計画までには至っていない。

委員等 夏にエアコンが必要になるのは、手間がかかる等の理由で緑が少なく、アスファルトやコンクリート等でまちなかが暑いからであるため、もっと緑が多ければ、暑さは抑えられる。緑を大切にすまちなかにするという考え方もあるのではないか。

委員等 環境省の試算では、先端技術を集約した「ドラえもん型都市」でも、自然豊かな「トトロ型都市」でも、2050年にCO2の80%削減は可能とされている。福岡市として、どのような未来の都市像を描くのかを決める必要がある。

コンパクトに集約して、先端技術でエネルギー排出抑制を図るのか、あるいは、むやみに集約せずに自然と共生するようなまちとしていくのか、いずれを選択するのかは大きな分かれ目である。

事務局 アイランドシティでは、どちらかといえば後者を目指しているといえる。クールスポットや風の道等を計画し、また、先端技術も使いながら、まちづくりを進めようとしている。

[景観・デザイン]

委員等 ビジョンを構成する項目は性能的な内容が主になっているが、デザイン面、景観面をどのように取り込んでいこうと考えているのか。低炭素対策の導入を前提としてデザインを考えると、これまでとはデザインが変わってくる。

委員等 勾配屋根の義務化、窓の仕様、住棟の向き、建物高さなどを制限したデザインコードのようなものを定めるのも一案である。

委員等 これまでのデザインコードは、まち並みをコントロールするためのものであったが、環境をコントロールするためのデザインコードがあっても良いのではないか。

事務局 アイランドシティでは「景観ガイドライン」を策定してまちづくりを誘導してきており、一定の成果は得られていると思う。環境に関する「見せ方」は重要と考えるが、具体的にどうすればよいか検討していきたい。

[住宅・建築—材料等の観点—]

委員等 低炭素化を進めるためには、住宅や建築物の建設に用いる材料についても考慮が必要である。断熱性能といった観点だけでなく、リサイクル、木造・コンクリートの特性の違いなどの観点も検討すべきではないか。

事務局 本ビジョンでもゼロ・エネルギー住宅等の建設を方策として挙げており、材料等についても議論の対象になってくると考えている。ビジョン策定の根拠となる「アイランドシティ事業計画」においても、スケルトンインフィル住宅等の導入といったメニューは挙げていますが、推

奨すべき材料等の視点は考慮されていない。どのような内容を盛り込んだらよいか、ご意見を頂きたい。

[交通]

委員等 「自転車利用」を盛り込むとよい。自動車の利用を我慢するのではなく、自転車を利用する人が楽しく快適に暮らせるまちづくりが望ましい。

[環境活動]

委員等 低炭素社会を実現するためには、住民の意識の啓発も必要ではないかということであったが、“その実現のためには一定の我慢を強いられることをやむを得ない”と考える人だけに限定して、住宅を供給するのは厳しいのではないか。

委員等 備え付けられている空調機器などの設備は、制約されずに利用するのは当然と考えて良いのではないか。

委員等 住民活動の意識の啓発の範囲については、全体の内容との整合を図りつつ、記述内容を事務局で整理していただきたい。

[ビジョン策定時の示し方]

委員等 今までの街と「見た目も違う」ということも重要であるため、ビジュアル的なものを策定時に見せる必要がある。ガイドライン的に建築単体を、パースのようなもので示すとすれば、その時に街並みについてもイメージとして伝わればよい。いずれにしてもそれが魅力的なものであることが重要である。

また、一般の人にどうアピールできるかが大事であり、イベントを行うなど広報戦略も重要。

委員等 海外の事例も鳥瞰パース的なもので説明されている。分野別の取り組みの方向性など、言葉や数字で表現されるものについては、どれくらいの施設がどのように配置されるのか、ある程度絵を描いてみないとわかりにくいのではないか。また、断面図で示すなど、どのような技術が街の中に埋め込まれているのか、分かるようなものがあると良い。

委員長 本日の意見を踏まえて、ビジョンの目次構成の見直しをお願いしたい。

以上